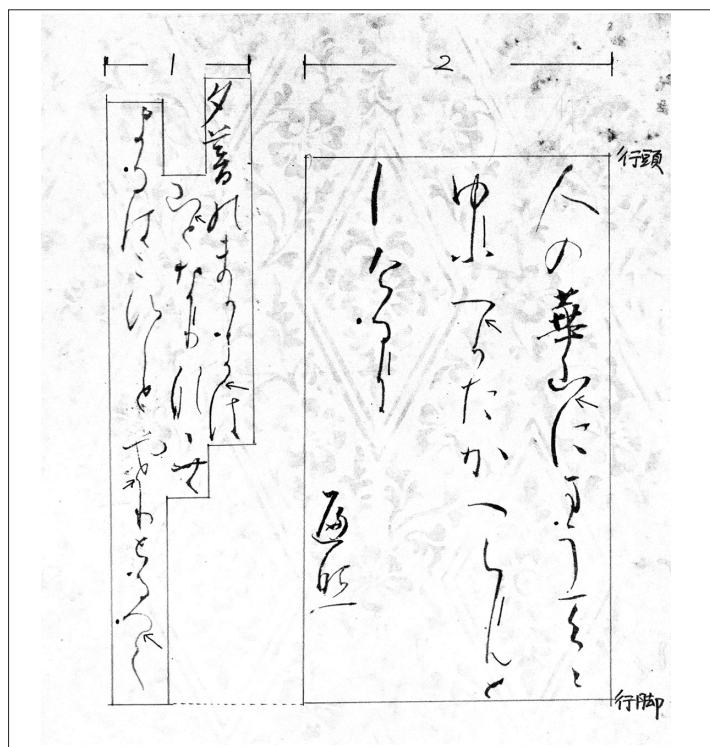


◆半紙たて書きに臨書して下さい。出品料430円

元永本古今集(392)



- 1、語句 人の華山に万う天々 ゆふつ可たかへらんとし介る尔 遍照
夕暮能 ま可支は山とな利那く無 よるはこ江しと やと利とるへく
- 2、形式 半紙をたてに使用。落款は左余白に全体の調和を考えた大ききで「〇〇臨」と入れる。

- 3、概観 元永本古今集の臨書課題の第一回に「漢字とかなの調和」で部分を学習。第五回に「二文字連綿」で部分を学習。更に第六回に「右回旋・左回旋連綿」で部分を学習。これらの学習を生かして、半紙にその全体を散らし書きします。
- 4、学習のポイント

(一) これまでの学習を生かすポイント

① 漢字とかなが調和するよう、漢字もかなも同じ気持ちで筆を運ぶこと。

② 二文字連綿での筆使いを意識すること。

(・) 止まって方向を変える。

(↓) 軽く方向を変える。

(―) 次の文字の一筆目を含める。

③ 右回旋連綿と左回旋からの連綿を無理なくすること。

(二) 散らし書きの視点

① 前半の「ことば書き」と後半の「和歌」の文字の大きさに注意すること。

② 前半と後半の行頭・行脚の高さに注意すること。

③ 前半と後半の行間の違いを明確にすること。

④ 前半部分と後半部分の幅の割合を2対1にして紙面に収めること。

※随意部参考(半紙・条幅)は32ページに掲載しました。是非チャレンジして下さい。

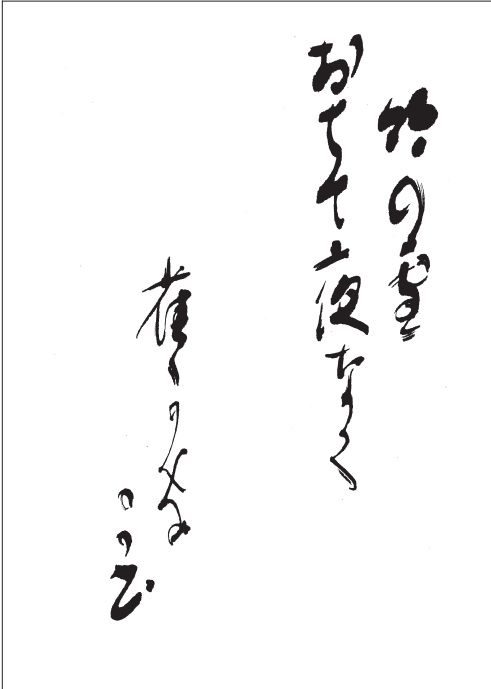
半紙課題(予告) (一月二十二日締切)

平岡華雪先生書 孤舟暮に帰り去る(王瑤湘)



訳：夕暮に君を乗せた舟が帰って行った。

平岡華雪先生書 竹の雪おちて夜なく雀かな(塵交)



一字書(十二月二十二日締切)

課題

照

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

一字だからこそ表現できる造形・線質。創造力を働かせて独自の世界を構築して下さい。字典で調べ(書体自由)、自由な発想での出品期待しています。

平成三十年秋季昇級試験

審査日

九月二十八日(金)

審査員

高橋香樹
青柳香竹
路川千曄
武井春凌
山田紫苑



条幅審査



路川先生



青柳先生



高橋会長



山田先生



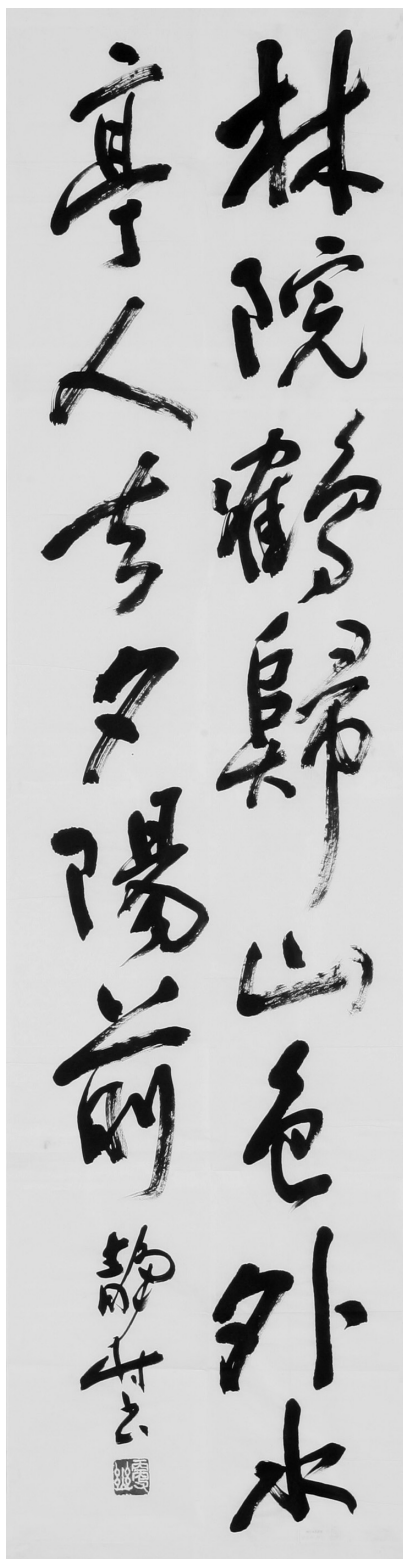
武井先生

半紙審査

A

鈴木静村先生書

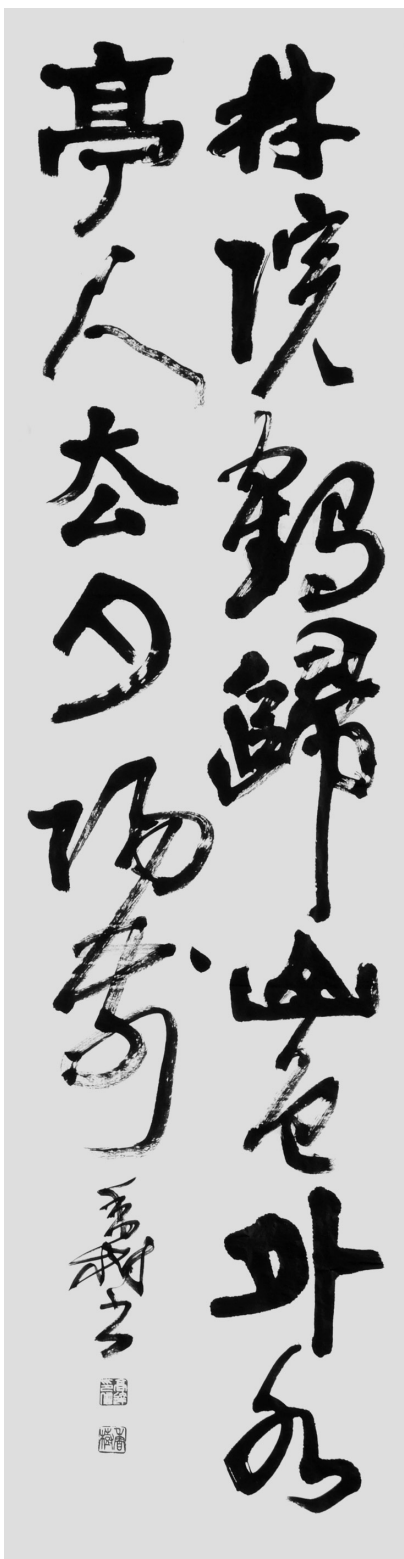
林院鶴歸山色外 水亭人去夕陽前 (釋大圭)
 林院鶴は帰る山色の外、水亭人は去る夕陽の前。



B

高橋香樹会长書

「歸」タテ画を決定打に——作品を引き立ててくれる文字、この作品では「歸」。この文字の末画。タテ画ののびやかな表出です。このタテ画が左
 行の「夕陽」二文字に照応し、しかも、「歸」下辺の余白を大きく二分している効果性、この点布置のポイントです。要は筆調豊かに、暢びやか。
 その上、線に「味」が加われば、より注目度は倍加されると思います。



破体書というのがある。私は、長年この破体書に取り組んでいるが、仲々難しい。破体書とは、数種類の書体を使った作品をいう。顔真卿に多くの作があり、副島蒼海・北方心泉などが興味ある作を残している。「外・夕」は篆書で、「亭・山」は隸書、「去」は楷書、他は行草書です。苦労するところは、いかに違和感なく書かかです。墨継ぎは「外」と「去」。

訳：林の中の寺から鶴が山の方へ帰り、水辺のあずま屋に夕日がさして人が帰ってゆく。

予告 (一月二十二日締切)

日暮蒼山遠

天寒白屋貧

柴門聞犬吠

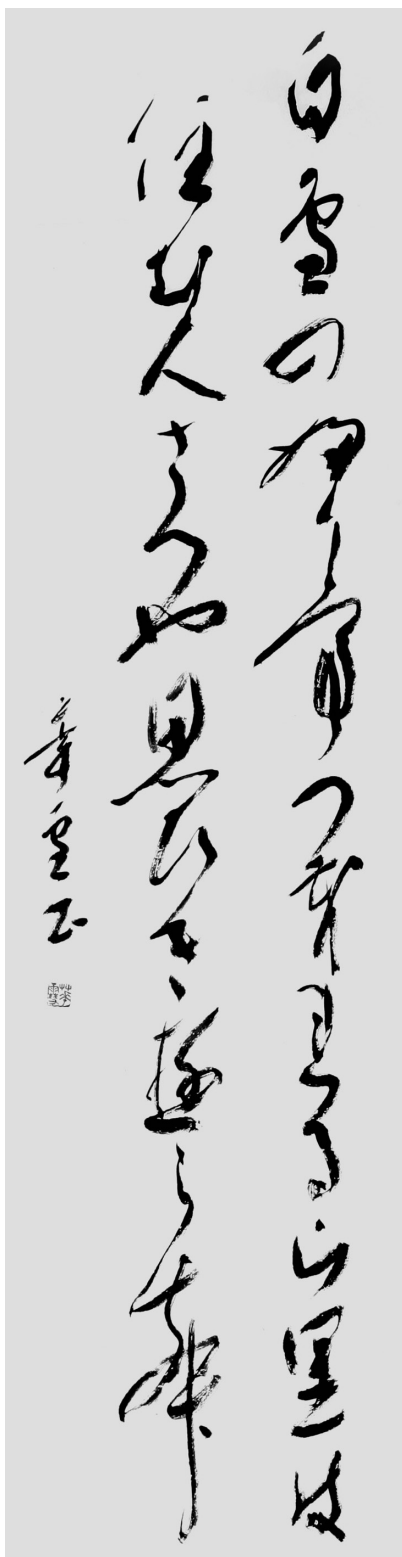
風雪夜歸人 (劉長卿)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

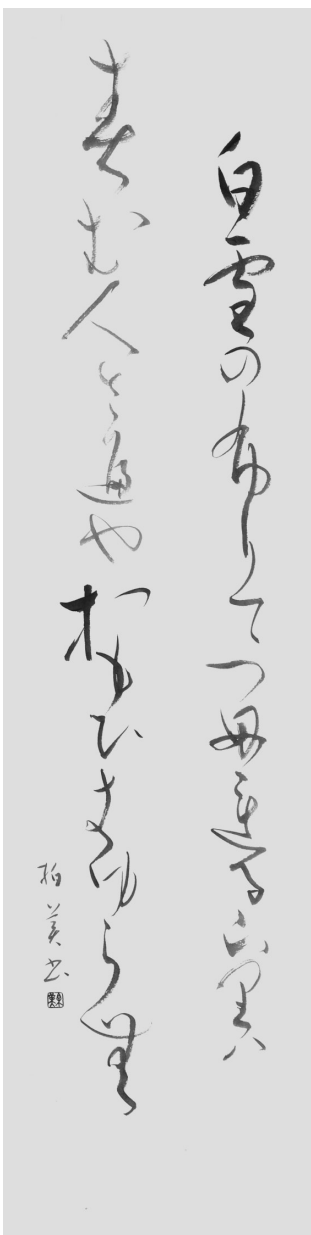
白雪の降りてつもれる山里は住む人さへや思ひ消ゆらむ (古今和歌集 壬生忠岑)
白雪の降り亭つ茂連る山里は住む人さへや思ひき遊ら舞



B

石島柏美先生書

白雪の布りてつ母連る山里八春む人さ遍や於もひ支ゆら無



学び方

作品はあまり誇張せずに素直な字体で自然の流れになるような二行書としました。一行目ははじめ「白雪」は少し下げて書き出し「山里八」まではまっすぐですが、「つ母連る」の連綿で少し動きを出し、「山里」を漢字で収め、行の長さを短か目にします。渴筆のまま二行目に入りますが、四句目が作品の山場となるように「春む人」は字間の間合いに気を配りながらゆっくりと大きく腕を動かし、余韻を残すような気持ちで書きます。終句「於もひ支ゆら無」で墨を入れますが、「於もひ」を少し左に移動し、字間を詰めて書き進め行の流れに変化をつけます。前回でも触れましたが、書作する上で大切なことは、行の響き合いが作品の出来を左右しますので、運筆の緩急、間合い、墨の濃淡に注意を払い作品作りをしてほしいと思います。

壬生忠岑 平安前期の歌人。三十六歌仙の一人。「古今和歌集」の撰者の一人でもある。「古今集」撰者のなかでは最も官位が低いが早くから歌人として知られた。端正で平明な表現のなかに静かな抒情性をただよわせた歌が多い。百人一首に「有明のつれなくみえし別れよりあかつきばかり憂きものはなし」がある。家集に「忠岑集」がある。

予告

(二月二十二日締切)

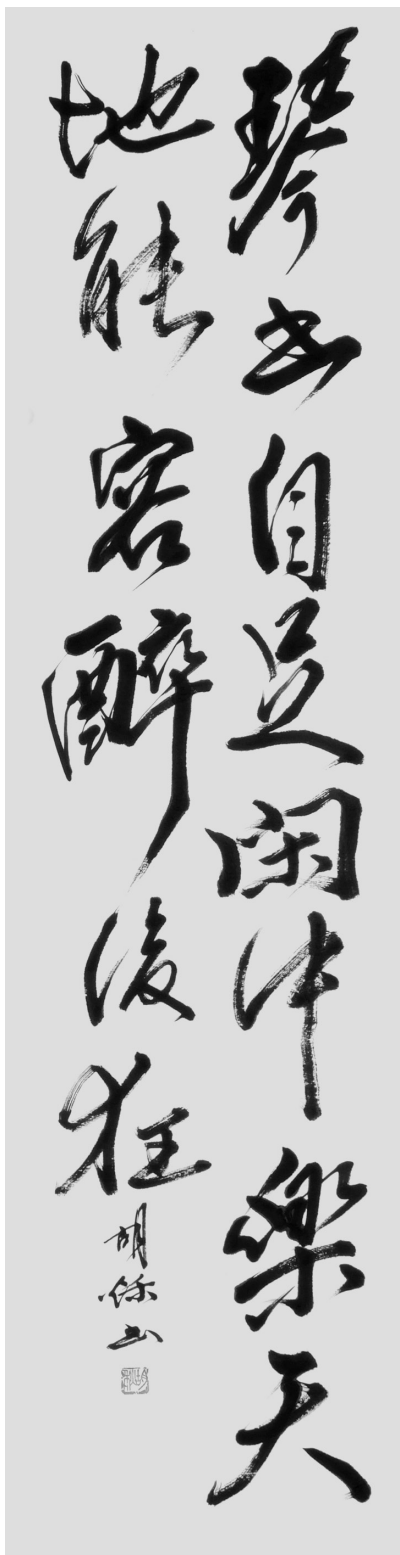
おしなべて木の芽もはるのあさ緑松にぞ千代の色はこもれる (新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

田中胡秋先生書

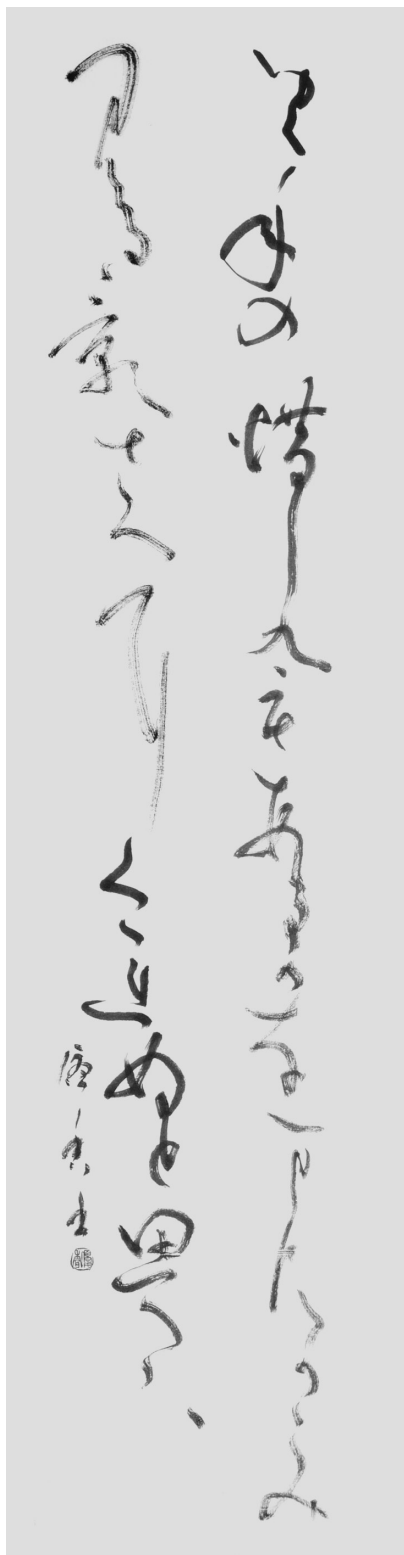
琴書自足閑中樂。天地能容醉後狂。(陸游)
 琴書自足閑中樂。天地能容醉後狂。



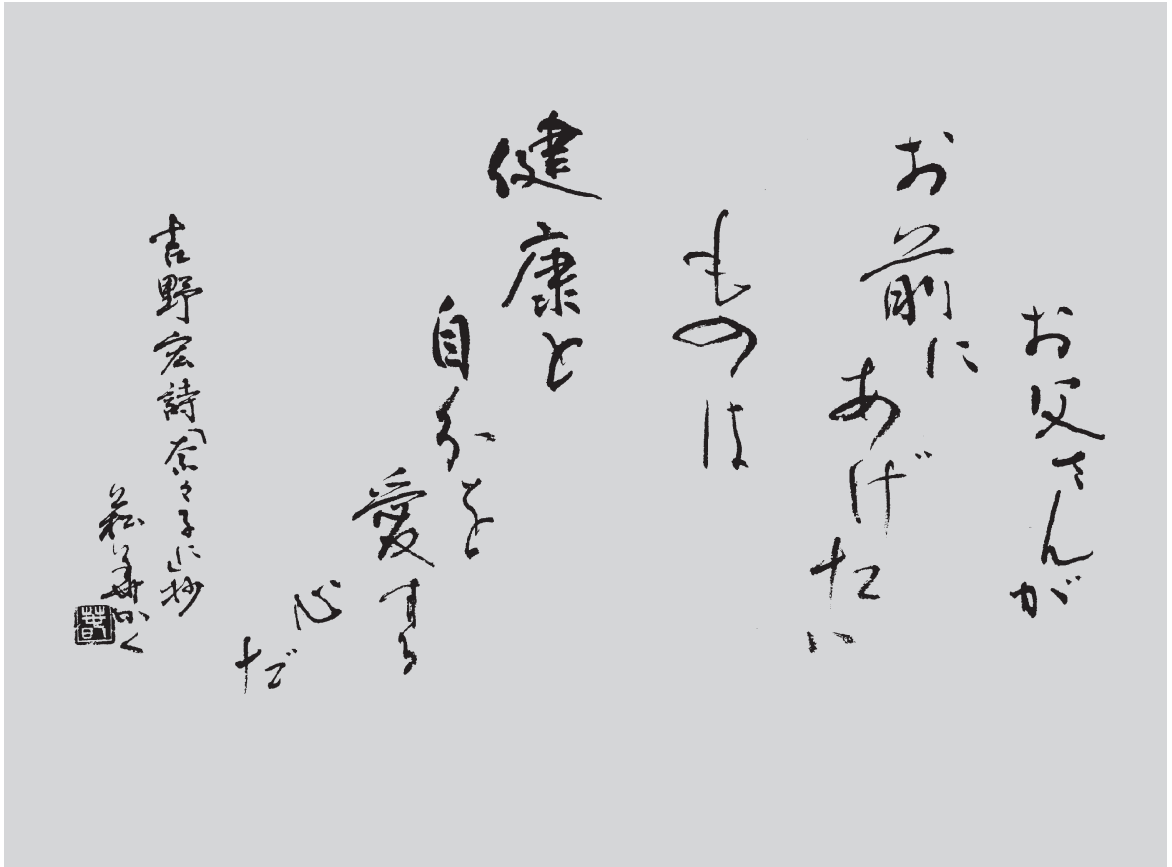
訳：琴をひき書を読むはおのずから閑中の充分な楽しみで、酔っぱらいの無頓着なる狂生をも能くこの天地間に受け容れてくれる。

本澤優香先生書

ゆく年の惜しくもある哉
 みる影さへにくれぬとおもへば
 古今和歌集 紀貫之



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）



小暮 崧華 先生書

お父さんが

お前にあげたいものは
健康と

自分を愛する心だ

奈々子に(抄) 吉野宏

今月は吉野宏の代表作のひとつ「奈々子に」をとり上げました。短くて、暖かいことばひとつひとつを大事に行を変えて書いてみました。書き出しの「お父さんが」を、印象に残る表現にしてみました。ことばを短く区切り、詩の前半は墨量を控え、後半「健康と」は、作品の山場となるよう、墨量も多めに強く表現しました。少ない文字で余白を生かすかどうか、挑戦して下さい。

吉野宏(一九二六～二〇一四) 詩人

山形県酒田市生まれ。酒田市立酒田商業学校卒業後一九四三年帝国石油勤務。

一九四九年より結核で三年間療養、療養中に詩作を始める。一九六九年、退職後、コピーライター、一九七二年、第二三回読売文学賞、詩歌俳句賞受賞。川崎洋、茨木のり子の詩誌「権」同人。谷川俊太郎、大岡信らと親交。やさしいことばと心の深い部分を突く詩多数。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

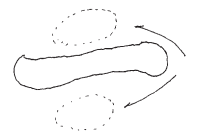
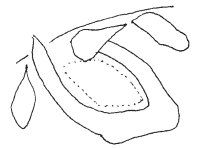
心を論ず酒一尊(馮文玉)

訳…心の底を打ち開き論ずるにはこの一樽の酒がある。

〈充実の運筆〉

特に「心・一」の充実味(節)に

注目のこと。筆圧を加えつつの運筆、サラッと流すことなく気持ちを入れられることの大切さを学び摂って下さい。



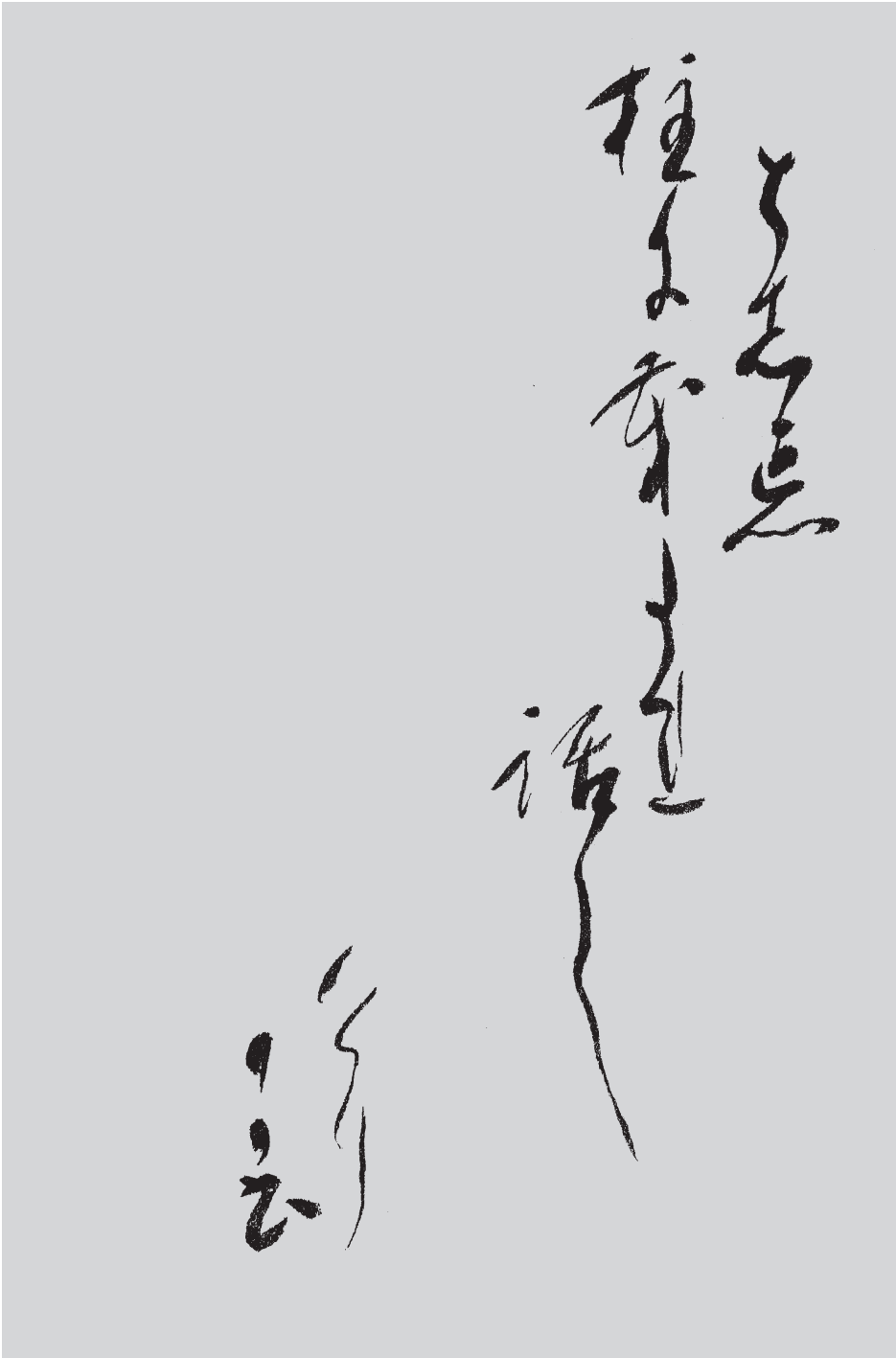
この余白が大切

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

年忘柱にもたれ話しけり (虚子)
と志忘柱^し尔^に茂多^も連^た話し^れ介^けり



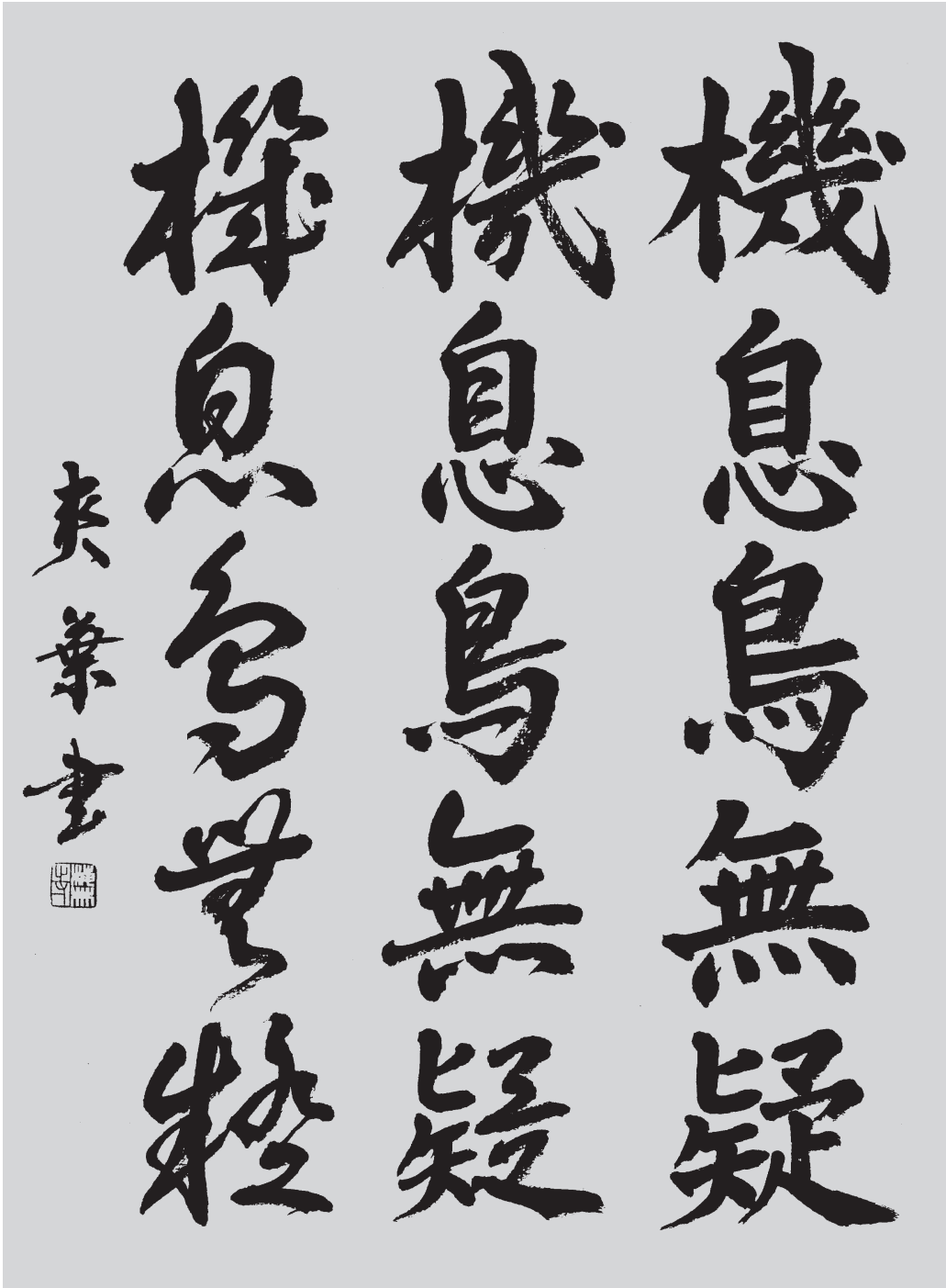
〈鑑賞と筆のまにまに〉
華雪先生特有の散らし。墨継ぎは一般的には「話」または「介」。各人毎の筆調・リズムによって効果性を見極めてほしい。「二行目メイン、特に「茂多連」。この変体かな連綿を成功させたい。「話」字幅、太細に注目。「介り」サラリとさりげない味。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

梅 林 寺 爽 葉 先 生 書

機息鳥無疑（孟浩然）
機息んで鳥疑うこと無し



訳：技巧を弄することもないから、鳥さえも疑う心なく舟へと近づいて来る。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

水貝潮華先生書

處和(莊子)
和に処す。

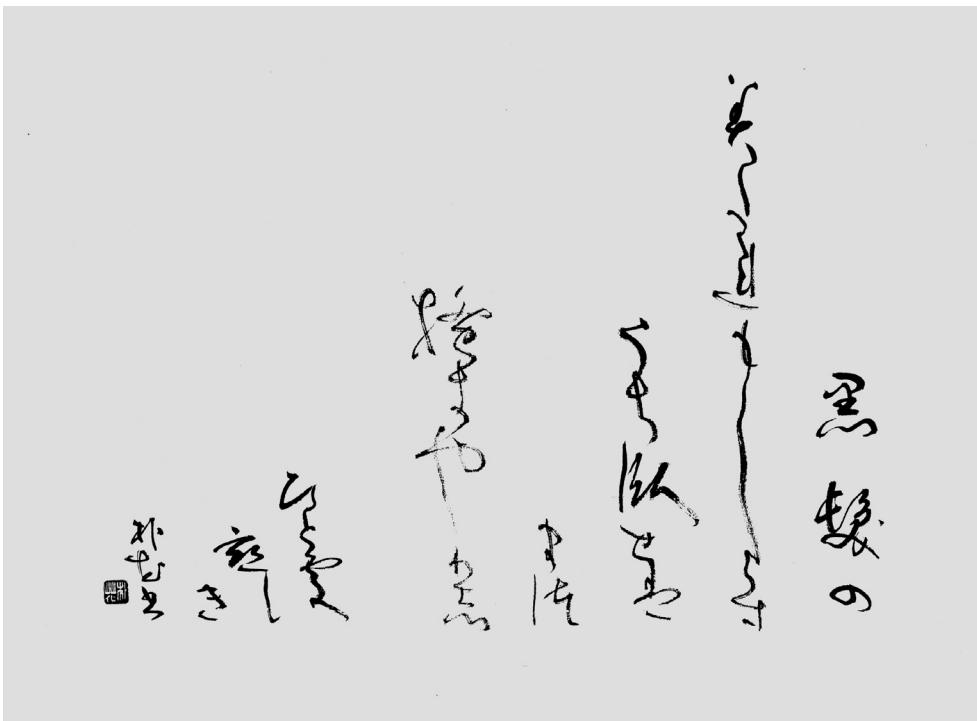


訳：心身を平和の地におく意。

向山朴花先生書

黒髪くろかみのみだれも知らずうち臥ふせばまづ搔かきやりし人ひとぞ恋こひしき

拾遺和歌集 和泉式部



黒髪くろかみの美み多連たれも之しら寸すうち臥ふせ盤はま徒搔た支しや利志りしひと處恋こひしき

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

未明の冬空は金属的な感触で
澄み透つてゐる。人麻呂が眺めてゐるのは
鋸形に炎立つ東天の曙光である。

全山をゆするような葉ずれの音が
人麻呂を包む。山中での日暮れに聞く
小舟原のざわめきは、なぜか人の不安
を誘うものである。

課題1 (初段階以上)

全山をゆするような葉ずれの音が人麻呂を包む。山中での日暮れに聞く小舟原のざわめきは、なぜか人の不安を誘うものである。

〔萬葉へ〕 萬葉集の竹

佐佐木幸綱

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

未明の冬空は金属的な感触で澄み透っている。人麻呂が眺めているのは鋸形に炎立つ東天の曙光である。

〔萬葉へ〕 佐佐木幸綱